



今年3月竣工の木造建築物「ボラス建築技術訓練校」に「ボラス建築技術訓練校」に使われた「合せ柱」「合せ梁」「重ね梁」の開発者。自身は同訓練校の4期生だ。大工になるために、建築について一から学んだ。卒業後、現場に配属されて約5年、400棟近くの住宅建築に携わった。精神的に仕事に取り組み、多くの経験を積んだ。そんな時期に体を壊した。現場作業が難しくなり退職も考えた。

しかし、照井さんと会社との縁がそこで切れることはなかった。当時、ボラスグループ



住宅向け流通集成材で「合せ柱」「合せ梁」「重ね梁」開発
ボラス暮らし科学研究所
構造G・グループ長
照井 清貴さん

阪神・淡路大震災後、研究所に導入された耐震実験棟で、各大学の試験準備に携わったことも貴重な経験となった

りにも携わった。機械メーカーやCADメーカーと多くのやり取りを交わして詳細を決め、マニュアルも作成した。羽柄プレカット開発を機に、照井さんの建築に対する見方が変化した。それまで大工職人が刻んでつくるものだと思っていた住宅建築を、プレカットやCADで、どこまでできるかがわかった。職人の技術と、機械の機能と可能性がどう結びつき、どう連携できるかが明確になったのだ。

その後、透明の耐力壁「クリスタルマジック」をはじめ様々な部材開発を実現する。訓練校が生んだ職人の卵が孵り、羽ばたいた。今やその成鳥は会社の一翼を担う。(真)